

# 新時代のエネルギーを考えるシンポジウム どう進める？ 再生可能エネルギー ～脱炭素社会に向けて～

2018年11月14日(水)

開場13:30 開演14:00

会場：東京国際フォーラム ホールC

■主催：「新時代のエネルギーを考えるシンポジウム」実行委員会、JXTGエネルギー、日本エネルギー経済研究所、RITE地球環境産業技術研究機構、NHKエンタープライズ ■後援：経済産業省

## 出演者プロフィール(50音順)



●パネリスト

**有馬 純** 東京大学公共政策大学院教授

1982年東京大学経済学部卒、同年通商産業省(現経済産業省)入省。IEA国別審査課長、資源エネルギー庁国際課長、大臣官房審議官地球環境問題担当、JETROロンドン事務所長を経て2015年8月東京大学公共政策大学院教授。著書『私的京都議定書始末記』(2014)『地球温暖化交渉の真実—国益をかけた経済戦争—』(2015)『精神論抜きの地球温暖化対策』(2016)『トランプ・リスク-米国第一主義と地球温暖化-』(2017)



●パネリスト

**中原 俊也** JXTGエネルギー株式会社 取締役常務執行役員

1983年一橋大学商学部卒業、日本石油入社。2000年 財務部国際金融グループマネージャー、2012年 JX日鉱日石エネルギー 総合企画部長。2015年 執行役員 総合企画部長、2017年4月より現職。管掌部門(秘書室・総合企画部・経理部・広報部・情報システム部管掌)



●パネリスト

**枝廣 淳子** 大学院大学至善館教授、幸せ経済社会研究所所長、環境ジャーナリスト

環境・エネルギー問題に関する講演、執筆、翻訳、コンサルティング等を通じて「伝えること、つなげること」で変化を創り、しなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。経済産業大臣主催「エネルギー情勢懇談会」メンバー(2017年8月～2018年4月)。2018年8月からは、未来投資会議での安倍首相からの指示を受けて設置された「FRI協定長期成長戦略懇談会」に参加。主な著訳書に『不都合な真実』『地元経済を創りなおす-分析・診断・対策』ほか多数。



●パネリスト

**山崎 琢矢** 経済産業省 資源エネルギー庁 新エネルギー課長

1996年東京大学法学部卒業後、通商産業省(現：経済産業省)入省。電力事業制度改革(小売の部分自由化の導入)、ベンチャー企業育成政策、サイバーセキュリティ政策(NISCの創設等)を担当。2006年より米国ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院(SAIS)にて修士号を取得後、同大学院客員研究員として活動。2012年より電力システム改革の制度設計を担当。2014年電力市場整備課長、2015年経済産業大臣秘書官を務め、2016年10月より現職。



●パネリスト

**小谷 真生子** 経済ニュースアンカー

大阪府生まれ。1986年日本航空入社。1990年に退社後、NHK総合「モーニングワイド」「おはよう日本」、NHK-BS1「ワールド・リポート」などのメインキャスターを務める。1994年10月にテレビ朝日「ニュースステーション」に参加。1998年4月より、テレビ東京「WBS」メインキャスターを16年務める。BSジャパンの企業トップのインタビュー番組「小谷真生子のKANDAN」も並行して出演。2013～2014年、「週刊ダイヤモンド」でコラム「フロンティアの横顔」を連載。2014年よりBSジャパン「日経プラス10」メインキャスターとして出演中。2005年よりWFP 国連世界食糧計画の顧問。2013年より世界経済フォーラムIMCのメンバー。2015年、経済協力開発機構年次総会にモデレーターとして登壇。



●コーディネーター

**関口 博之** NHK解説委員

1979年一橋大学法学部卒業後、NHKに記者として入局。東京では報道局経済部記者として数多くの経験を積んだ後、解説委員に。担当は経済政策・企業戦略で、「経済羅針盤」などのキャスターを歴任。2011年6月から2年間北九州放送局長を務め、2013年6月より現職。



▶参加証はメール(PDF)に変わっております。プリントアウトしてお持ちください。  
※ハガキ・FAXでのご応募の方には従来通り参加証をお送りいたします。

2018.11.14 (水) ■開場 13:30 開演 14:00 (16:00終了予定)  
東京国際フォーラム ホールC 千代田区丸の内3-5-1

●JR

有楽町駅国際フォーラム口より徒歩1分  
東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅4番出口とB1F地下コンコースにて連絡)

●地下鉄

有楽町線：有楽町駅D5出口よりB1F地下コンコースにて連絡  
日比谷線：銀座駅B10出口より徒歩7分/日比谷駅A2出口より徒歩5分  
千代田線：二重橋前駅1番出口より徒歩5分/日比谷駅A9出口より徒歩7分  
丸の内線：銀座駅C9出口より徒歩5分  
銀座線：銀座駅B10出口より徒歩7分/京橋駅3番出口より徒歩7分  
三田線：日比谷駅B3出口より徒歩5分

# どう進める？ 再生可能エネルギー

## ～脱炭素社会に向けて～

### ●14:00 主催者挨拶

大田 勝幸

「新時代のエネルギーを考えるシンポジウム」実行委員長  
JXTGエネルギー株式会社 代表取締役社長

### ●14:10 パネルディスカッション

## どう進める？ 再生可能エネルギー ～脱炭素社会に向けて～

#### ■パネリスト(50音順)

- 有馬 純 ●東京大学公共政策大学院教授  
枝廣 淳子 ●大学院大学至善館教授、幸せ経済社会研究所所長、  
環境ジャーナリスト  
小谷 真生子 ●経済ニュースアンカー  
中原 俊也 ●JXTGエネルギー 取締役常務執行役員  
山崎 琢矢 ●経済産業省 資源エネルギー庁  
新エネルギー課長

#### ■コーディネーター

- 関口 博之 ●NHK解説委員

### ●16:00 終了予定

気候変動に対処するため国際社会が採択したパリ協定。「産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑制するとともに、1.5℃までへの抑制に向けた努力を継続する」という野心的な目標が打ち出されました。このためには、温室効果ガスの排出量をできるだけ早期に減少に転じさせるとともに、排出量を実質ゼロにする脱炭素社会に向けた取り組みが不可欠です。この重要なカギを握るのが、太陽光や風力などの再生可能エネルギー。環境への負荷が少なく、エネルギー自給率の向上にも貢献する持続可能なエネルギーです。

他方、我が国では、本年7月、長期的なエネルギー政策の方針「エネルギー基本計画」が改定され、再生可能エネルギーの「主力電源化」が打ち出されました。また、2030年の電源構成において、再生可能エネルギーは22～24%の水準まで高めることが示されています。2016年度に比べ、7ポイント以上増やす必要があり、これまで以上に取り組みを加速しなければなりません。

今回のシンポジウムでは、『どう進める再生可能エネルギー～脱炭素社会に向けて～』をテーマとして、再生可能エネルギーを推進するにあたっての諸課題に関し、議論を深めます。

欧州をはじめとする諸外国と比べ、再生可能エネルギーの普及が進んでいない日本。導入コストが海外に比べ割高であることや、普及促進策として導入された固定価格買取制度(FIT)のコスト負担増、さらに、太陽光や風力などの変動電源は発電量が一定ではないため、発電量の予測や抑制といった柔軟な電力システムの運用が必要となります。また、変動をカバーする別の電源、調整力の確保も不可欠です。再生可能エネルギーの立地によっては系統制約が生じる可能性があることも普及の妨げになっています。

日本の再生可能エネルギーをどう伸ばし、未来の持続可能な社会へどうつなげるのかを主な論点として、海外の事例や、国内自治体・企業の取り組みを紹介するとともに、行政、学識経験者、民間企業、消費者、それぞれの立場のパネリストからご意見を伺います。

### 参加申込方法

下記ホームページからお申込ください。(FAX、ハガキでもお申込いただけます)  
参加証はメール(PDF)に変わっております。プリントアウトしてお持ちください。  
※ハガキ・FAXでの応募の方には従来通り参加証をお送りいたします。

● ホームページ <http://www.energysymposium.jp>

● FAX 03-6823-2837

● ハガキ 〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-6-207 「新時代のエネルギーを考えるシンポジウム」参加登録事務局宛

● お問い合わせ先 電話番号 03-3711-3603 (平日9時～17時)

参加無料

応募者多数の場合は  
先着順とさせていただきます。

### FAX申込書

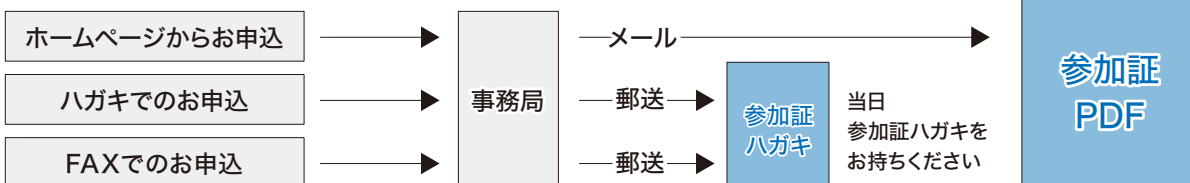
※FAXにてご応募の場合は、以下のFAX申込書にてお申込ください。 ※ハガキにてご応募の場合も同様に下記事項をご記入の上お申込ください。  
※お一人様1枚ずつお申込ください。 ※お申込みいただきました個人情報は、本シンポジウムの事務手続きのみに使用いたします。

ふりがな お名前	電話 番号	
勤務先	部署名	役職
住 所 (〒 — )		

### ご参加までの流れ

先着順で参加証を送らせていただきます。ホームページからお申込みの方は参加証PDF、ハガキ・FAXからお申込みの方は参加証ハガキとなります。

### プリンターで出力



ホームページからお申込みの方は今回から参加証ハガキはありません。申込み完了後に表示される画面、または、お申込み後に送信されるメール文面をご参照の上、**プリンターで参加証を出力してご持参ください。**